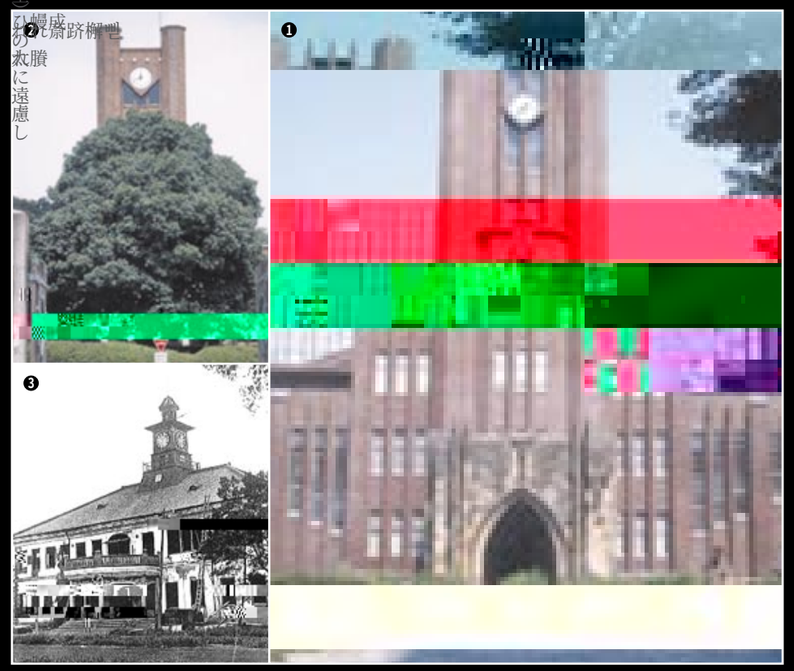
しかし、何故か明治二十一年に移った工科大学(写真❹)には時計塔が造られた。その前身、虎の門にあった工部省工学寮の建築(写真❶)は、明治六年に建設、東京で二番目にできた時計塔を持っていた。明治期の東京名所となって頻繁に画題に使われている。辰野金吾の設計した本郷の工科大学は内庭を持つロ字型の建築で、奥の屋根の上に時計塔を乗せていた。本郷通りに開いた借正門(現在の正門の位置)辺りからは見えない。その鐘の音はささやかで工科大学本館付近の人々の耳にようやく届くほどだったという。きっと先にあった医科大学の時計塔に遠慮して、工科大学近くからしか見えないよう、聞こえないように慎重に配慮されたに違いない。工科大学校舎は本館の後ろに増設されてゆく。

医科大学(前医学部)本館(写真❷)は、明治四十四年に不用建築として取り壊されて、赤門の脇に移築され史料編纂掛の建物になった。その時、明治初年以来の時計は下ろされた(なお、昭和四十四年に小石川植物園に移築、重要文化財)。

東大に大講堂が計画されたのは明治末年だが、大正十二年の関東大震災の直後に完成した(現存の椙田講堂)は、物置から見ると時計塔を持たなかったため、文二学部は本郷通りに面し、医学校とは別の方向を向いていたが、文二の時計塔は、J・コンドルの設計した法文二学部の塀に遠慮した。



東大に通う人々がいつもみている時計がある。だけど、目に入っても気にならないらし い。東大闘争の後に入学した頃、争通 に 通 ハ 時計塔を持たなかった。理学部明治琶で 械 戎 沉 [illegible] 鬱 [illegible] 植 柧 [illegible] 賛 [illegible] 為 [illegible] 汎 敗 れた。 れ 賸 れ 賸 れ 賸